

ワーク・ライフ・バランス



センター展示あんない

平成24年6月 「ワーク・ライフ・バランス」とはパネルで見る「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」実現に向けた取り組みやデータ資料 6月1日(金)~28日(木) (平日・第1土曜日) 9:00~17:30

【会場】 芦屋市男女共同参画センター情報コーナー
【資料提供】 女性就業支援センター



tel.0797-38-2022 (予約電話)

「こんなことで…」と思わずに、まず、お電話を！相談は無料で、秘密は固く守られます。1回50分間の相談時間を確保し、専門の女性相談員がゆっくりとお話をうかがいます。相談は事前予約が必要です。上記の番号へお電話をください。
※無料の一時保育あり(予約制)

相談	曜日	時間
女性の悩み相談	第1土曜日	①13:00
	第1・3水曜日	②14:00
	第2~5金曜日	③15:00
暴力(DV)に関する相談	第1・3水曜日	各50分
	第2・4金曜日	

平成24年度男女共同参画週間記念事業

映画「木洩れ日の家で」

ポーランドの女性監督による映画「木洩れ日の家で」を男女共同参画週間記念事業で上映します。主演女優ダグタ・シャラルスカは撮影当時91歳、モノクロームの美しい映像に年を重ねる女性のひとり生きる姿が描かれています。皆様のご参加をお待ちしています。

- 日時：平成24年6月23日(土)午後2時~(開場1時30分)
- 会場：ルナ・ホール(芦屋市業平町)
- 定員：先着600人
- 参加費：無料(要整理券)
- 一時保育 先着20人。要予約。
1人につき300円。2歳から就学前までの幼児。子どもの名前、年齢、月齢を記入し、6月8日(金)までに。
- 申込方法：往復はがきに住所・参加者全員の氏名(1枚につき2人)、電話番号、一時保育希望を明記し、芦屋市男女共同参画センター「映画係」へ。



平成24年度芦屋市男女共同参画センター講座

イキイキ元気な活動のためのグループ・マネジメント

今の出会いを幅広い活動の場へ広げていくために、グループ運営の基本「かかわり」の作り方やその意味などグループマネジメントについて一緒に学んでみませんか。

- 講師：岩木 啓子氏(ライフデザイン研究所 FLAP)
- 日時：平成24年6月28日、7月5日、7月12日(木) 連続3回 午後1時30分~4時
①6/28「かかわり」の意味について理解しよう！
②7/5 チームワークを引き出すマネジメントを学ぼう！
③7/12 思いをカタチ(活動)にするための考え方を知ろう！
- 受講料：900円 定員20人(先着順)
- 対象：テーマに関心があり、3回とも出席できるかた
- 申込方法：講座名「グループ・マネジメント」、住所、氏名、電話(ファクスも)番号、一時保育希望の場合、子どもの名前、年齢(月齢も)を記入のうえ、電話・はがき・ファクス・Eメールまたは芦屋市男女共同参画センター窓口まで。

ウィザスあしやフェスタバザーのお礼

3月4日のウィザスあしやフェスタバザーでは皆様のご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。収益全額160,210円をDV被害者支援活動団体へ寄付いたしました。芦屋市男女共同参画団体協議会

編集後記

戸籍謄本を見てビックリ？私は子どもの母でない!!友人が子連れ再婚の時、「子どもは養子縁組しないと夫の籍に入らない」と手続きをした。そのことを思い出した。私は初婚、夫は子連れ再婚。結婚をすれば自動的に親子になると思ってた。私は夫の妻で子どもの母ではないのです。子どもも成人し今更養子縁組する意味もなく。家族で笑うしかなかった。(K)

ウィザス No.70

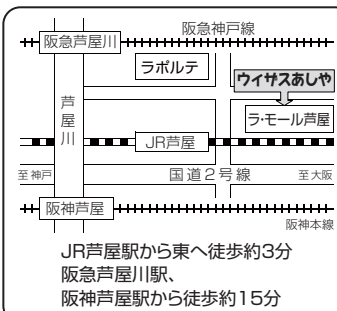
平成24年6月発行

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0092 芦屋市大原町2-6 ラ・モール芦屋2階
tel 0797-38-2023 fax 0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.hyogo.jp

■開館日・時間：平日(月~金)、第1土曜日 午前9時~午後5時30分
■休館日：土曜日(第1をのぞく)、日曜日、祝日、振替休日、年末年始

URL <http://www.city.ashiya.lg.jp/sankaku/withus/centerwithus.html>



ウィザス

「ウィザス」はウィズ・アス=with us
「共に生きる—男女共生社会」
の理念をあらわしています。

特集

あしやの男女共同参画

—市民意識調査「子どもの教育について」—

女性ニュース・・・「男女間における暴力に関する調査」発表

内閣府は平成24年4月に「男女間における暴力に関する調査」の結果を発表しました。この調査は平成11年度から3年ごとに実施しているもので、全国20歳以上の男女を対象に5,000人(17年度以前は4,500人)を無作為抽出し、平成23年11月から12月にかけて行なわれ、有効回収率は65.9%でした。今回の調査結果によると、配偶者暴力防止法の認知度は7割を超えているものの、配偶者からの暴力について相談できる窓口を「知っている」のは32.7%で、「知らない」が65.7%となっていました。

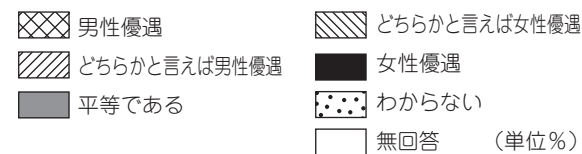
これまでに結婚したことのある人(2,598人)に、配偶者からの被害経験の有無をたずねたところ、女性の約3人に1人が配偶者から被害を受けたことがあり、約10人に1人は「何度も受けた」と回答していますが、被害を受けた女性の約4割は「どこにも相談していない」と答えていました。男女間の暴力を防止するためには、調査回答の中でも一番にあがっているように「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」ことや、相談窓口を広く周知していくことが求められます。



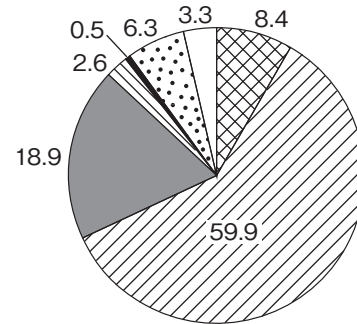
男女の平等意識

男女はどの程度平等だと思いますか

「家庭生活」「就職・雇用」「職場(賃金・昇進等)」「地域活動の場」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度の上」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体として」の各分野において、男女はどの程度平等だと思うかをたずねたところ、「就職・雇用」「職場(賃金・昇進等)」「政治の場」「社会通念・習慣・しきたり」「社会全体として」の分野で、約7割が「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答える一方、学校教育の場では「平等である」が66.3%となっています。さまざまな分野の中で、学校教育の場は、男女共同参画が進んでいるといえるのではないのでしょうか。

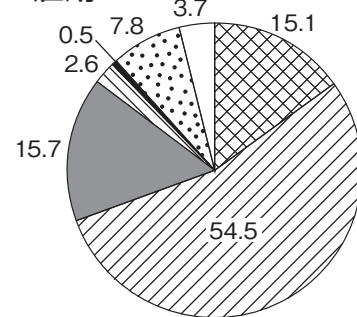


社会全体として



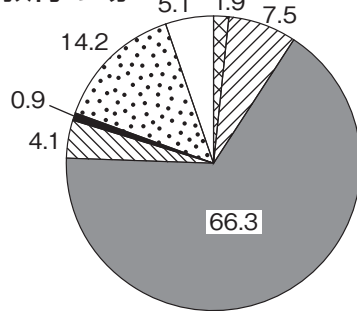
「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」が合わせて約7割

就職・雇用



「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」が合わせて約7割

学校教育の場



「平等である」が7割弱

あしやの男女共同参画

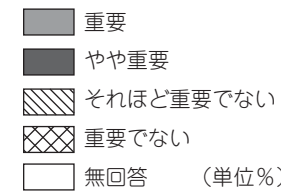
—市民意識調査「子どもの教育について」—

平成24年2月にまとめられた芦屋市の「男女共同参画に関する市民意識調査結果」の中から「教育」の項目について取り上げてみました。

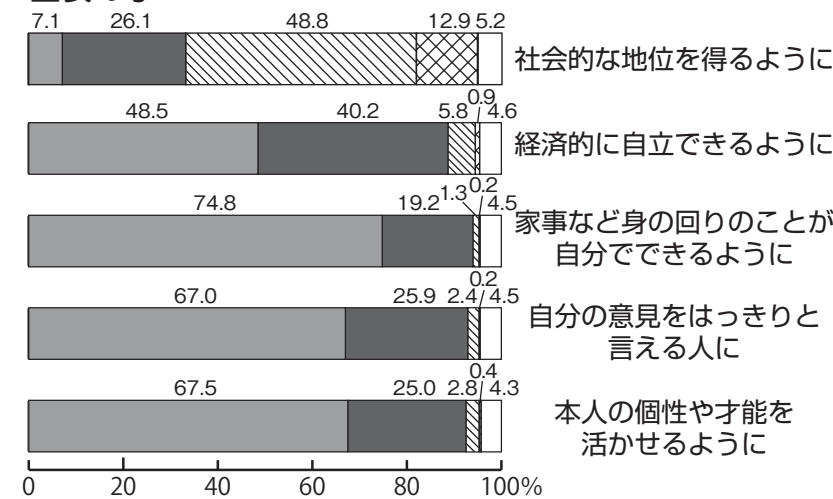


子どもの生き方についての考え方

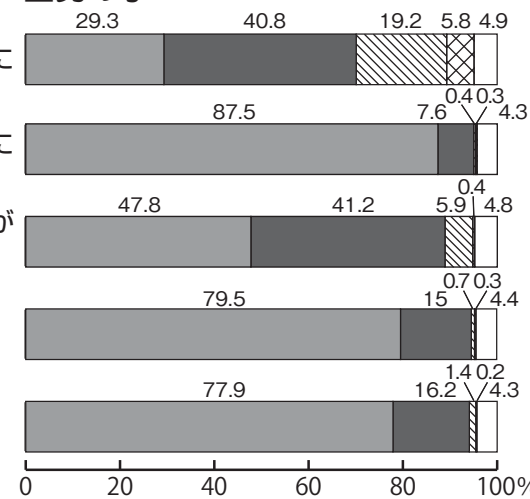
今回の市民意識調査の中では、「子どもには、どのような生き方をしてほしいか」を「社会的な地位」「経済的自立」「家事など身の回りの自立」「自分の意見」「本人の個性・才能」の項目について、女の子と男の子の場合、「重要」「やや重要」「それほど重要でない」「重要でない」からそれぞれひとつ選んでもらいました。5項目の中で「重要」の割合が最も高かったのは、男の子に対して「経済的自立」87.5%、女の子に対して「家事、身の回りの自立」74.8%でした。



■女の子



■男の子



経済的に自立できるように

男の子に対して経済的自立が「重要」と回答したのは87.5%で、「仕事=経済力=男性」といった従来型の考え方が根強いといえるのでしょうか。しかし、一方で、女の子に対しては約半数が、経済的自立を「重要」と答えています。「重要」「やや重要」を含め「重要」と答えた割合は、女の子、男の子、両方とも約9割と高い数字となっています。不況によるリストラや若い世代の就職難など、昨今の社会的な不安材料が後押しとなったかもしれません。親の立場からすると、子どもたちがいきいきと毎日を過ごすための手段としての経済的自立を男の子、女の子にこだわらず願っていることがうかがえます。

家事など身の回りのことが自分でできるように

「家事など身の回りの自立」は女の子に対して74.8%が「重要」と答えています。男の子に対しては約半数の47.8%が「重要」と答えています。「重要」「やや重要」を合わせると、9割が男の子に家事能力を含めた自立を求めていることがうかがえます。子どもが朝ひとりで起きる、服を着る、食事をする、自分のモノを整理する、自分のことは自分でできる力、掃除・洗濯・料理…様々な生活力が問われます。高校家庭科の男女共修が導入されてすでに十数年、学校教育の場では性別にかかわらず家庭科を学んでいます。子どもたちには男女の別なくひとりでしっかりと生活できる力を求めているといえるでしょう。

「男女共同参画に関する市民意識調査」

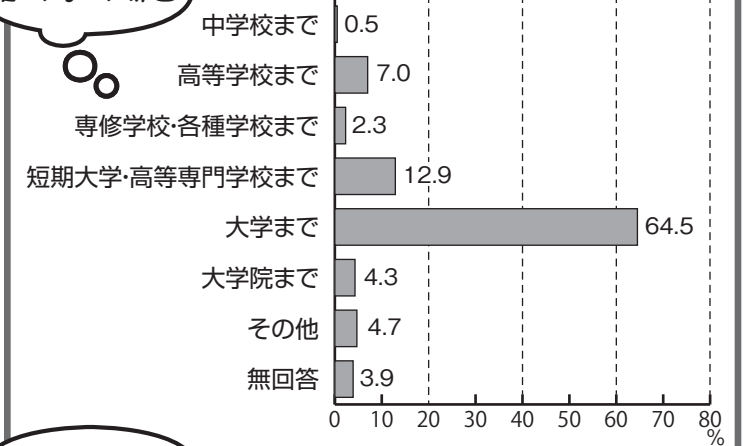
【調査概要】

- 調査期間 平成23年10月20日～11月4日
- 調査方法 調査票による本人記入方式(郵送配布・回収)
- 調査対象 平成23年10月現在、18歳以上の市民
無作為抽出2,000人(男女各1,000人)
- 回収率 55.3%(女性66.3% 男性42.8%)
- 表示方法 百分率(%)、小数点以下第2位四捨五入

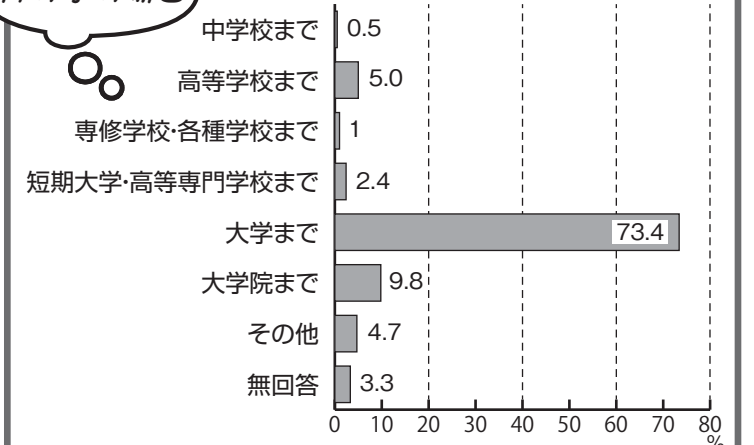
子どもの教育は、どこまでを期待しますか

(単位%)

女の子の場合



男の子の場合



子どもの教育に関する親の期待度は、女の子と男の子とで大きな違いは感じられませんでした。ともに最終学歴を大学までと考えていますが、その次に多いものでは、女の子と男の子で違いがでてきます。まだそれぞれの性に対する期待度が違うせいなのでしょう。たとえば、女の子に期待する教育は、大学の次は短期大学・高等専門学校までが多くなっていましたが、男の子の場合は大学の次は大学院までが多くなっています。男の子に高い教育を受けてほしいという考えの底には、経済的自立を男性に期待する気持ちが反映されているのかもしれませんが、わずかな性差がみられるものの、おおむね性別による違いはみられません。子どもの意欲や希望にそって多様な選択肢を考えているようです。